

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

香港に暮らすネパール人
(変わるネパールと変わらぬネパール：
グローバル化した世界に暮らす, 第7回)

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2014-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 南, 真木人 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5109



コンサート翌日の昼食会に集まった在香港マカール人。前列左端は筆者（2004年）

みなみ・まきと 1961年、札幌生まれ。筑波大学大学院修了。専門は文化人類学、南アジア研究。主要共著／『エスノ・サイエンス』（京大出版会 2002年）、『文化の生産』（ドメス出版 1999年）、『アジア読本ネパール』（河出書房新社 1997年）など。

変わるネパールと変わらぬネパール

グローバル化した世界に暮らす

第7回
 国立民族学博物館助教授
 写真文 南真木人

四月中旬、香港に行ってきた。ネパールの一民族、マカール人協会香港の催しに招かれたからだ。訪ねたところは、九龍からバスで一時間かかる新界の元朗である。ここにはネパール系の移民が多く住むが、それは近くの石崗に、ネパール人兵士で組織された英国の正規軍「グルカ連隊」の基地があったからだ。

一九九七年、香港は中国に返還され、グルカ連隊も撤収した。だが、少なからぬ退役グルカ兵は、警備員などの職に就いて香港に残った。父親の駐留中に香港で生まれたネパール人は、香港の永住権を持つので、ネパールの政情不安が高じるとともに、より安全で賃金が高い香港にUターンし、家族や配偶者を呼び寄せている。こうして香港のネパール系移民は、現在約五万人（全市民約六百八十万）に達し、そのうち約二万人がマカール人だという。

催しは、マカールの伝統的な歌と踊りに、寸劇、ネパールの歌謡曲などを組み合わせたコンサートだった。九百席のホールは満員で、本国から招いたマカール人の人気歌手と、地元で結成されたマカール舞踊団の歌舞に会場は沸いた。その一人シーラさんは、男女が恋愛の歌詞を

即興でかけ合う、伝統的な歌合戦ドホリーのスター歌手だ。彼女は客席の男性に向かって「舞台上上がってらっしゃい。あなたたちが勝ったら私は香港に住むけど、負けたらネパールに帰って、また草刈りをするのよ」と挑発し喝采を浴びていた。

彼女の香港公演は二回目だが、他にもマレーシア、カタール、バーレーン、ベルギーなどで公演している。おそらく、日本にも約四百人のマカール人が暮らしており、彼女の招待を画策しているからだ。移民にとって本国の文化にふれる催しは、最大の娯楽である。かくして人気歌手は、慰問団のようにして世界を駆け巡ることになった。

香港に暮らすネパール人

香港の中国返還を機に、中国系の香港人がカナダなどに大挙して移住したことは有名だ。だが一方で、ネパール人のように、進んで移入する人も後を絶たない。そんな彼女（女）らも、一国二制度に基づく中国の香港特別行政区が、今後どのように変わっていくかを注視している。現に今回、将来を見据えて次なる新天地を探し始めた、というマカール人に会った。香港返還はネパール人にとっても大きな出来事であった。